

平成 21 年 6 月 5 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18202015
 研究課題名（和文） 地図史料学の構築 - 前近代地図データ集積・公開のために -
 研究課題名（英文） Maps as Historical Documents: Building Knowledge for the Purpose of Accumulating and Publicly Disseminating Data Concerning Maps Produced in Pre-Modern Japan
 研究代表者
 氏名（アルファベット）杉本 史子（SUGIMOTO FUMIKO）
 所属機関・所属部局名・職名 東京大学・史料編纂所・准教授
 研究者番号 10187669

研究成果の概要：これまで主に歴史学・地理学において検討されてきた地図学に、文化財科学・科学史・美術史・作成技術者からなる文理融合・諸職掌共同の原本調査・研究の成果を導入し、内容・物的側面の両面からの分析を融合させた、新しい史料学の構築を検討した。また、いまだ基礎データの整備されていない、前近代に作成された地図類についての所在情報を蓄積、一部公開し、諸分野からの地図研究・教育活用のための共通データの基礎を作り出した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2007年度	8,500,000	2,550,000	11,050,000
2008年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
年度			
年度			
総計	22,400,000	6,720,000	29,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：史料学・地図・目録学・文化財科学・身分論・近世・日本史

1. 研究開始当初の背景

近代以前に日本において作成された地図類（以下、前近代地図という）は、全国の収蔵館や個人宅に膨大に所蔵されている。しかし、その所在についての全国的データは未整備である。

一方、近年、全国の図書館・博物館などでは、地図類のデジタル画像公開が急速に進んでいる。これらの多くのサイトが「ギャラリー」と名付けられているように、美しい地図画像の披露することを主要な目的としており、前近代地図が本来持つ豊富な情報をも理解できる画像公開方法は今後の課題として残されている。

研究や教育に有用な地図情報を提供するという観点からの検討と、基準となる指標の構築、全国的なデータ整備が急務だといえる。その基礎となるのは、前近代地図のもつ、近代的地図とは異なる特質を十分に明らかにすることである。

本研究グループは、第二次世界大戦以前の巨大官庁であった旧内務省所蔵地図類・史料類（東京大学史料編纂所に伝来）を整理・研究してきた、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センタープロジェクト「内務省引継地図および関連史料の研究」の5年間の現物分析・史料群分析の蓄積を元に、対象を全国に拡大して新しい地図史料学の構築を検討す

ることを企図した。

2. 研究の目的

(1) 前近代地図を対象に、文理諸分野の専門家・作成技術者の参画した原本調査を実施し、内容・物的側面の両面から、前近代地図の特質を明らかにする。

(2) 前近代地図についての所在情報を蓄積し、学界や社会に有用な地図データ公開のありかたを検討する。

3. 研究の方法

(1) 独自の原本調査の実施

これまで国宝などの美術作品において成果をあげてきた色料についての科学的調査(蛍光X線分析法・可視反射分光スペクトル測定法)を、前近代地図に対し初めて実施した。前近代地図は日本画と共通する色料を使用して作成されており、作成に関わる文献資料も美術作品に比べ、豊富に残されている。また美術品に比べ、保管状態が良好な場合が多い。本科研で得られたデータは、古地図の基礎データであるのみならず、美術作品一般の基準資料ともなりえるものと考えられる。

日本画家・古文書装幀・修復担当者といった作成技術者の視点を、研究の中に有機的に組み込み、描写内容の検討とともに、モノとしての地図を作り上げる技術・技法について検討を行った。

その巨大さと情報量の膨大さの故に、本格的な原本調査の困難だった、一辺数メートルに及ぶ手書き大型絵図(前近代における代表的な政治地図である国絵図)について、各絵図一枚につき平均20人におよぶ調査団を組織し、共同調査の方法論を蓄積していった。

以上の観点から、次の各機関において原本調査を行った。

2006年度

徳島大学(9月)

高知市民図書館(9月)

2007年度

ライデン大学(9月)

ライデン国立民族博物館(9月)

山口県文書館(科学的調査)

岡山大学(下調査1月、科学的調査10月)

2008年度

国立公文書館(9月、1月)

宮城県図書館(3月)

(2) 地図データ蓄積

各年度の公開研究会・シンポジウム((3)参照)において、諸分野の研究者や収蔵館メンバーと、あるべき地図データについての意見交換を進め、以下の地図データを収集した。

全国の地図所在情報の概括的把握

各地図収蔵館の利用条件をつかみ、今後のデータ蓄積体制の基礎となるデータを蓄積する。また合理的に検索・公開できる体制を構築する。

公開のコンセンサスの形成された、利用可能な地図データの集積：既存刊行物に収載されている地図データを蓄積する。このデータ蓄積は、前近代地図というものが、現代社会の出版物にどのような位置づけで収録されてきたかという点についての見取り図をも示すことになる。

地図に関する研究文献データの集積：このデータについては、研究内容を表現したキーワードを充実させ、効果的検索の実現を旨としている。

地図を取り囲む史料群の把握：地図を単体ではなくそれを含む史料群のなかでとらえるため、国絵図の作成を担当した大名の史料群およびそれについての研究状況のデータ作成を行った。

インターネット上に公開されている地図画像の把握：地図画像公開がどのような仕様・内容で行われているかについて、データを集積した。

(3) 公開研究会・シンポジウムを各年度開催し、歴史学・地理学・科学史・社会学・文化人類学など諸分野にわたる議論を蓄積した。

2006年度(以下敬称略)

公開研究会「歴史のなかの地図・空間描写 測量」、東京大学山上会館(2006年7月24日)

*鈴木純子(日本国際地図学会地図史専門部会主査・元国会図書館地図室)「地図と測量 18~19世紀、近世から近代へ」

*コメント小野寺淳(茨城大学)
*渡辺誠氏(富山市科学文化センター主幹学芸員)「加賀藩の事例を中心とした、測量器具と地図作成について」
*コメント鳴海邦匡(大阪大学)

2007年度

公開研究会「歴史のなかの地図 地図-知の交差点」、東京大学山上会館(2007年7月7日・8日)

[講演]メリ・エリザベス・ベリ(カリフォルニア大学教授・歴史学)「京都図の思想 記号と世界」

[研究報告]

*中村雄祐(東京大学・開発研究)「認知の道具としての地図」
*コメント佐藤健二(東京大学・社会学)

*鳴海邦匡(大阪大学・歴史地理学)「コンパスにみる近世日本の測量術の画期」
*コメント佐藤賢一(電気通信大学・科

学史)

* 杉本史子(東京大学・歴史学)「構造体としての地図」

* 野積正吉(射水市新湊博物館・歴史学)「近代形成期の国絵図 加賀藩の事例を中心に」

2008年度

公開研究集会「近世社会と地図作成」

東京大学山上会館(2008年7月11日)

* 小関悠一郎(東京大学・歴史学)「絵図の伝来と史料群 米沢藩を事例に」

* 渡辺理絵(筑波大学・地理学)「描写内容からみる城下町絵図の特徴と今後の研究の可能性」

* 杉森玲子(東京大学・歴史学)「京都・六条寺内の成立と絵図」

シンポジウム「歴史のなかの地図 近代国家形成と地図作成 比較史的視点から」東京大学山上会館(2008年7月12日)

* 島津俊之(和歌山大学・地理学)「内務省地理局の地図作製とコミュニケーション 空間掌握をめぐる官庁地理学(Official Geography)の一実践」* ディスカサント山田俊弘(千葉県立幕張総合高等学校/筑波大学・科学史)

* 飯島明子(天理大学・歴史学)「『地図がつくったタイ』とタイ史の見方」* ディスカサント吉江貴文(広島県立大学・文化人類学)

田中葉子「公開研究集会「近世社会と地図作成」・シンポジウム「歴史の中の地図 近代国家形成と地図作成 比較史的視点から」参加記」(『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信』44号、2009年)

(4) 作成行為プロジェクト

身体に外在する支持体に文字や視覚表現を書きつける行為の意味を、作成技術者・社会学・認知論・歴史学などの立場から5回の研究会において検討した。

4. 研究成果

(1)『歴史学研究』841号・842号特集「世界のなかの近世絵図(1)(2)」(2008年6月・7月号)で、本共同研究メンバーの論文10本を公開し、共同研究の成果を学界に問うた。また編集委員会を組織し、研究成果を、諸分野共同の基本入門書として公刊する準備に入った。

(2)2009年3月、東京大学史料編纂所ホームページにおいて、「古地図・絵図所在情報アンケートデータベース」の公開を開始した。これにより、古地図・絵図所在情報の基礎データを全国レベルで把握する足がかりがで

きた。

(3)東京大学・九州大学・茨城大学・京都府立大学において、既刊刊行物(展示図録・自治体史・地図写真集など)に収載された地図についての地図情報約1万件および研究論文情報3600件を集積した。

(4)原本調査について以下の報告書を作成した。

『徳島・高知調査中間報告書』

『山口県文書館所蔵絵図資料の彩色材料調査結果報告』

『岡山大学附属図書館所蔵資料の彩色材料調査結果報告』

『ライデン国立民族学博物館「大日本諸国名産紙集」報告書(全データ)』

杉本史子・村岡ゆかり・国木田明子・高島晶彦「シーボルトが収集した国絵図・出版図と和紙見本帳について - 蒐集と公開の十九世紀」(pp.45-79, 『東京大学史料編纂所研究紀要』19、2009年3月)

(5) 今後の展望

基盤研究(A)「『地図史料学の構築』の新展開 - 科学的調査・復元研究・データベース」

(課題番号21242018、2009~2011)において、以上の研究内容を深化・発展させていくとともに、国絵図復元プロジェクトを立ちあげ、学術的復元の検討を行う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計27件)

1. 杉本史子・村岡ゆかり・国木田明子・高島晶彦「シーボルトが収集した国絵図・出版図と和紙見本帳について 蒐集と公開の十九世紀」『東京大学史料編纂所研究紀要』19、pp.45-79、2009年、査読無

2. 杉本史子「近世地図論序説 身分秩序と主体・行為・モノ」『歴史学研究』841、pp.2-22、2008年、査読無

3. 杉本史子「時事と鳥瞰図 - 幕末、新たな空間の誕生と五雲亭貞秀」『千葉県史研究』16、pp.45-67、2008年、査読無、

4. 吉田直人「可視反射分光スペクトル法による染料分析 近世絵図資料彩色調査への応用」『歴史学研究』841、pp.35-42、2008年、査読無、

5. 村岡ゆかり「肉眼観察から見た絵図 模写制作者の見地から」『歴史学研究』841、pp.43-49、2008年、査読無

6. 高島晶彦「表装技術から絵図を問い直す」『歴史学研究』841、pp.50-54、2008年、査読無
7. 磯永和貴「地域史のなかの絵図 自治体史の絵図・地図編」『歴史学研究』841、pp.55-63、2008年、査読無
8. ロナルド・トビ「近世の都名所 方広寺前と耳塚 - 洛中洛外図・京絵図・名所案内を中心に -」『歴史学研究』842、pp.1-12、2008年、査読無
9. 鳴海邦匡「近世絵図にみる測量の記録とその表現 - 国絵図研究会の活動を通して -」『歴史学研究』842、pp.13-24、2008年、査読無
10. 降旗千賀子「絵図 色彩とその原料からみえてくるもの」『歴史学研究』841、pp.29-34、2008年、査読無
11. 小野寺淳「近世絵図史料論の課題 - 国絵図研究会の活動を通して -」『歴史学研究』842、pp.25-32、2008年、査読無
12. 上杉和央「博物学と地図収集ネットワーク」京都府立大学学術報告委員会『京都府立大学学術報告、人文・社会』60、pp.41-68、2008年
13. 上杉和央「条里の研究史」(特集 古代の地理 地図で考える)『地理』53-12、pp.56-62、2008年、査読無
14. 早川泰弘「蛍光X線分析による国宝吉祥天像の彩色材料調査」『保存科学』47、pp.27-36、2008、査読有
15. 杉本史子「赤い色の調達 近世の朱座絵図の時代」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』40、pp.15-18、2008年、査読無
16. 杉本史子「輝きと普遍 秩序表現としての彩色 絵図の時代」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』39、pp.13-15、2007年、査読無
17. 荒井経、二宮修治、高林弘実、初井基充(分担執筆)「狩野芳崖筆「仁王捉鬼」にみる日本画材料の近代化 「仁王捉鬼」の顔料調査とその意義」『文化財保存修復学会第29回大会研究発表要旨集』pp.50-51、2007年、査読有
18. 小野寺淳「絵図を写す人々 - 正保常陸国絵図を例に -」『地方史研究』58巻5号、pp.22-26、2008年、査読無
19. 小野寺淳「平井松午(徳島大):古地図のGIS的世界 - 歴史地理学研究における古地図を用いたGIS分析の可能性と課題 (2007年[人文地理学会]大会特別研究発表 - 報告・討論の要旨および座長の所見)」『人文地理』349、pp.55-60、2008年、査読無
20. 富善一敏「近世日本のアーカイブズ - 利用の側面を中心に -」『アーカイブズ学研究』8、pp.20-38、2007年、査読無
21. 杉本史子「ふたつの緑色 同時代人の眼絵図の時代」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』36、pp.22-26、2007年、査読無
22. 小林茂・鳴海邦匡「沖縄県における土地整理事業の準備過程 - 地図作製を中心に -」『待兼山論叢』41(日本学篇)2、pp.1-24、2007年、査読無
23. 杉本史子「自然は何色か - 色彩材料からみた絵図 絵図の時代」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』35、pp.13-18、2006年、査読無
24. 杉本史子「色をかたちづくるもの 絵図の時代」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』34、pp.12-17、2006年、査読無
25. 杉本史子「上品な日常知識 “の中の一覧図 絵図の時代”」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』33、pp.17-20、2006年、査読無
26. 高島晶彦「江戸大節用海内蔵(乾・坤)補修記録」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』35、pp.6-9、2006年、査読無
27. 鳴海邦匡「近世の大阪の地図に関するノート」『待兼山論叢』40、pp.13-33、2006年、査読有
- 〔学会発表〕(計 17 件)
1. 島津俊之「内務省地理局の地図作製と国土掌握 近代日本における官庁地理学 (Official Geography) の一実践」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2008年度シンポジウム「歴史の中の地図 近代国家形成と地図作成 比較史的視点から」、東京大学、2008年7月12

日

2. 飯島明子「『地図がつくったタイ』とタイ史の見方」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2008年度シンポジウム「歴史の中の地図 近代国家形成と地図作成 比較史的視点から」、東京大学、2008年7月12日

3. 渡辺理絵「描写内容からみる城下町絵図の特徴と今後の研究の可能性」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2008年度公開研究集会「近世社会と地図作成」、東京大学、2008年7月11日

4. 杉森玲子「京都・六条寺内の成立と絵図」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2008年度公開研究集会「近世社会と地図作成」、東京大学、2008年7月11日

5. 小関悠一郎「絵図の伝来と史料群 元禄国絵図関連史料について」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2008年度公開研究集会「近世社会と地図作成」、東京大学、2008年7月11日

6. 小野寺淳「ライデン大学シーボルト国絵図について(1)志摩国絵図」第51回歴史地理学会大会、宮城大学、2008年5月18日、(歴史地理学50巻4号に要旨)

7. 荒井経(代表者)・二宮修治・小川絢子・佐藤香子、「赤外線撮影による天然岩絵具と新岩絵具の判別法」、文化財保存修復学会第30回記念大会、九州国立博物館、2008年5月17日

8. 荒井経(招待講演)「日本画の色彩と色材」、日本色彩学会関東支部、東京家政学院短期大学、2008年4月6日

9. 鳴海邦匡「絵図・地図からみた城下町大坂」、大阪歴史博物館共同研究シンポジウム「城下町大坂を考える」、2008年3月23日、大阪歴史博物館

10. 鳴海邦匡「コンパスにみる近世日本の測量術の画期」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2007年度公開研究集会「歴史の中の地図 地図 - 知の交差点」、2007年7月7日、東京大学

11. 杉本史子「構造体としての地図 - 国絵図」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2007年度公開研究集会「歴史の中の地図 地図 - 知の交差点」、2007年7月8日、東京大学

12. 野積正吉「近代形成期の国絵図 - 加賀藩の事例を中心に -」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2007年度公開研究集会「歴史の中の地図 地図 - 知の交差点」、2007年7月8日、東京大学

13. 中村雄祐「認知の道具としての地図」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2007年度公開研究集会「歴史の中の地図 地図 - 知の交差点」、2007年7月7日、東京大学

14. メリ・エリザベス・ベリ「京都図の思想記号と世界」(科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」)2007年度公開研究集会「歴史の中の地図 地図 - 知の交差点」2007年7月7日、東京大学

15. 杉本史子「絵図研究と科学的調査」(東京文化財研究所主催研究会「絵図研究と科学的調査」、2007年2月28日、東京文化財研究所

16. 鈴木純子「地図と測量 18~19世紀、近世から近代へ」(科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)公開研究会「歴史の中の地図・空間描写 測量」2006年7月24日、東京大学

17. 渡辺誠「加賀藩の事例を中心とした、測量器具と地図作成について」(科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)公開研究会「歴史の中の地図・空間描写 測量」2006年7月24日、東京大学

〔図書〕(計 8 件)

1. 杉本史子「史料学の試み - 「モノとしての史料」を問い直す」、斎藤晃編集『テキストと人文学』人文書院2009年、pp.50-70

2. 上杉和央「宇治の景観認識の変遷について - 平等院・茶を中心に -」、菱田哲郎編『南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究』(京都府立大学文学部歴史学科, 2009.3) pp.43-60

3. 杉本史子「房総の空間を描く」、『千葉県の歴史 通史編 近世2』、pp.655-684、2008年

4. 佐藤道信、古田亮、敷田弘子、井土誠、岡本正康、荒井経「芳崖と西洋顔料」、『狩野芳崖 悲母観音への軌跡』展カタログ』芸大美術館ミュージアムショップ/(有)六文舎、pp.106-111、2008年

5. 鳴海邦匡・大澤研一・小林茂責任編集『城下町大坂 - 絵図・地図からみた武士の姿 - 』大阪大学出版会、全 100 頁、2008 年

6. 富善一敏『東京大学経済学部文書室・文書室所蔵文書目録』、全 104 頁、2007 年

7. 鳴海邦匡『近世日本の地図と測量 - 村と「廻り検地」 - 』九州大学出版会、全 212 頁、2007 年

8. 近藤成一「鎌倉幕府と公家政権」『新体系日本史 1 国家史』(宮地正人・佐藤信・五味文彦・高埜利彦編、山川出版社)、pp. 144 -183、2006 年、査読無

〔その他〕

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/collaboration/18202015.html>

http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fumiko/kaken_index.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉本 史子 (SUGIMOTO FUMIKO)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：10187669

(2) 研究分担者

小野寺 淳 (ONODERA ATUSHI)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号：90204263

上杉 和央 (UESUGI KAZUHIRO)
京都府立大学・文学部・講師
研究者番号：70379030

磯永 和貴 (ISONAGA KAZUKI)
東亜大学・人間科学部・准教授
研究者番号：10201922

(3) 連携研究者

荒井 経 (ARAI KEI)
東京藝術大学・美術研究科・准教授
研究者番号：60360739

井上 聡 (INOUE SATOSHI)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20302656

近藤 成一 (KONDO SHIGEKAZU)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：90153717

佐野 千絵 (SANO CHIE)

東京文化財研究所 保存修復センター
研究者番号：40215885

杉森 玲子 (SUGIMORI REIKO)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：30262140

高島 晶彦 (TAKASHIMA AKIHIKO)
東京大学・史料編纂所・技術専門職員
研究者番号：10422437

中野 等 (NAKANO HITOSHI)
九州大学・比較社会文化研究院・教授
研究者番号：10301350

中村 雄祐 (NAKAMURA YUSUKE)
東京大学大学院人文社会系研究科
研究者番号：60237443

鳴海 邦匡 (NARUMI KUNITADA)
甲南大学文学部・准教授
研究者番号：00420414

早川 泰弘 (HAYAKAWA YASUHIRO)
東京文化財研究所 保存修復センター
研究者番号：20290869

村岡 ゆかり (MURAOKA YUKARI)
東京大学史料編纂所・技術専門職員
研究者番号：00422436

吉田 直人 (YOSHIDA NAOTO)
東京文化財研究所・保存修復センター
研究者番号：80370998

(4) 研究協力者

喜多 祐子 (KITA YUKO)
宝塚市立中央図書館・資料調査員

国木田 明子 (KUNIKIDA AKIKO)
神戸市立博物館

鈴木 純子 (SUZUKI JUNKO)
日本国際地図学会地図史専門部会主査
・元国会図書館地図室

ロナルド トビ (Ronald P. Toby)
イリノイ大学・教授

富善 一敏 (TOMIZEN KAZUTOSHI)
東京大学大学院・経済学研究科

野積 正吉 (NOZUMI MASAYOHI)
射水市新湊博物館

降旗 千賀子 (HURIHATA CHIKAKO)
目黒区美術館